

	公表	事業所における自己評価総括表（児童発達支援）		
--	----	------------------------	--	--

○事業所名	療育センターアルテ1st			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～	2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～	2025年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日			

○ 分析結果			
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が在籍し、それぞれの専門的な視点を活かした関わりができているとともに、共通の保育観をもって支援にあたれている。日々の共有を通して、共通して実施すべき内容が明確になっており、職員全体で同じ方向性を意識しながら支援を進めることができています。	個別支援計画に加え、専門的支援計画も作成しており、集団全体での取り組みと個別での取り組みを整理した上で、それぞれの児童の特性や個性を評価・検討しながら関わることができています。また、状況に応じて専門的支援計画の内容については、集団の中での配慮や関わりが必要な場面を踏まえ、専門職員と意見交換を行いながら、集団生活の中で般化できるよう取り組んでいる。	専門的な支援の中で獲得した力が、集団生活の中でどの程度般化できているかを定期的に振り返り、職員間で共有することで、保護者との面談や日常のやり取りにおいても、全職員が共通認識のもと、児童の課題や強みを把握した上で説明できる体制づくりにつなげていく。
2	聴覚的な情報の理解が難しい児童に対しては、視覚的な手がかりを補うことを目的に、イラストを用いた掲示物を教室内に貼り出し、理解を促している。また、就学児が多い施設の特徴を踏まえ、大人用サイズのみではなく子ども用トイレを設置するなど、バリアフリー化された環境を整えている。	例) 姿勢保持が苦手な椅子を傾けてしまう児童に対しては、「だめ」といった否定的な声掛けは行わず、理由を伝えるとともに、イラストを用いて模範となる姿勢を視覚的に示しながら声掛けを行っている。	バリアフリー化の視点において、手すり等の身体補助を目的とした設備面の整備が十分ではない部分があり、今後の環境改善に向けた検討が必要である。
3	アルテ2ndが隣接しているため、各研修や日常的な職員の行き来を通して、普段現場に直接介入する機会が少ない職員からも助言を受けることができ、意見交換の機会が自然と多く生まれる体制となっている。	定期的な法定研修については、アルテ2ndと合同で実施している。また、毎朝の朝礼を1st・2nd合同で行うことで、その日の予定や前日の出来事共有、意見交換が行いやすい環境づくりに取り組んでいる。	現在、意見交換は決められた日程で行うことが主となっており、事業所間の日常的なやり取りが少なくなっている。そのため、事業所間での情報共有や意見交換がしやすくなるツールの導入を検討し、より質の高い療育の提供および業務の効率化につなげていくことが求められる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所には専門職も在籍しているものの、日常的な記録業務や各種書類作成、関係機関との連絡調整等の事務作業も併せて担っている状況である。そのため、療育業務に充てられる時間に一定の制約が生じており、毎日安定した個別リハビリテーションと集団療育の両立体制の構築が今後の検討課題となっている。	事務作業等の業務量について、正職員間で業務分担の調整が必要な状況が見受けられる。その影響により、日常的な療育提供体制において、担当できる職員に限られる場面が生じている。記録業務や書類作成、関係機関との連絡調整等を多く担う職員がいることから、療育に従事する時間の確保について、今後さらなる工夫が求められている。	今後は、専門性を要しない業務について職員間で均等に分担する体制を整え、特定の職員に業務が集中しないよう見直しを行うことで、療育に従事できる職員の確保および支援体制の安定化を図っていく。
2	基準人員は確保できているものの、職員に欠勤等が生じた場合には人員配置に一時的な制約が生じ、最低限の配置での運営を余儀なくされる場面がある。そのため、業務の柔軟な調整が難しくなり、職員一人当たりの業務負担が増加するとともに、支援や事務業務に充てられる時間の確保が課題となる可能性がある。	正職員に欠勤が生じた際の緊急時対応に関するマニュアル等が十分に整備されていないため、欠勤発生時にはその都度、役割分担や業務の優先順位について検討・決定する必要がある状況である。このため、対応に時間を要することや、職員間で対応方法に差が生じる可能性があり、円滑な運営に影響を及ぼす場合がある。	今後は、欠勤や急な人員不足に対応可能な体制のさらなる強化、業務の効率化および優先順位付けの具体策、外部リソースの効果的活用、職員の健康管理および負担軽減策について検討する必要がある。また、これらの取り組みが現場で円滑に実施できるよう、運用面や調整方法についても具体的な方策を詰めることが求められる。
3	当事業所の構造上の特徴として、メインフロア中央部に大きな支柱が設置されている。この支柱の存在により、フロア全体を見渡した配置や広い動線の確保が難しく、集団活動を実施する際には活動内容や人数、配置方法に一定の制約が生じることが、当事業所の弱みの一つである。	支援を行う上で、メインフロア中央部に設置された支柱の影響を考慮し、支柱周辺での接触や転倒などの事故を防ぐため、支柱に影響のない活動内容を選定して支援を実施している。しかし、支柱により視界や動線が一部制限される構造上、児童が走る、急に方向転換するなどの動きが伴う活動については、安全面への配慮が必要であり、実施が難しい状況である。	走る活動を行う際には、施設内の構造上、メインフロア中央に支柱が設置されていることから、児童の安全確保を最優先とし、原則として屋外への外出や広いスペースの活用などの工夫を行う。室内で活動を実施する場合には、支柱周辺に衝撃緩和用のマットを設置し、児童の動線を考慮した配置を行うとともに、支柱付近に職員を配置する体制を整えることを検討する。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名	療育センター アルテ1st	公表日				2026年 4月 1日	利用児童数	37	回収数	12
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	66.7%	16.7%	0%	16.7%	・もう少し広いと良いなと感じます。 ・確保されていると思います。	・必要に応じて部屋を分けたりなどを して対応しております。			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	75.0%	16.7%	0%	8.3%	・専門性はとてもあると思います。 ・配置数はお休みの先生がいるとギリギリなのかなと感じます。	・配置基準は満たしておりますが、職員 の補充は厳しい状況にあります。			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー 化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	91.7%	0%	0%	8.3%	・絵を使用して分かりやすく示してい ただいていると思います。				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思 いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思 いますか。	83.3%	8.3%	0%	8.3%	・心地よく過ごせる空間になっている と思います。				
保護者への説明等	5 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されてい ると思いますか。	100%	0%	0%	0%	・先生方は保護者の意見を汲んで作成 していただいているとおもいます。				
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す 支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、 具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	・行われていると思います。				
	8 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	83.3%	16.7%	0%	0%					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこども と活動する機会がありますか。	41.7%	16.7%	0%	41.7%					
	10 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%					
	11 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされました か。	100%	0%	0%	0%					
	12 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	66.7%	8.3%	0%	25%	・ペアトレ等はないが、その都度対応 を一緒に考えていただいています。	・ペアレントトレーニング等は行って おりませんが、支援内容についてのご質問 やご相談がございましたら、いつでもお 声がけください。			
	13 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思いますか。	83.3%	16.7%	0%	0%	・連絡帳等で共通理解できていると思 います。				
14 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交 流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きよ うだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が 設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	91.7%	8.3%	0%	0%		・特別保護者同士の支援等はないと思 います。				
16 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されて いるとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて 周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されて いますか。	100%	0%	0%	0%	・すぐに対応していただいていると思 います。					
17 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされて いると思いますか。	100%	0%	0%	0%	・お便りをいただいています。					
18 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体 制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発 信されていますか。	91.7%	8.3%	0%	0%						
19 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	91.7%	0%	0%	8.3%						
非常時等の対応	20 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されて いますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%	0%	0%	0%					
	21 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要 な訓練が行われていますか。	83.3%	0%	0%	16.7%					
その他	22 こどもは通所を楽しみにしていますか。	83.3%	8.3%	0%	8.3%	・楽しみにして行っています。				
	23 事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%	・いつも親子共々気にかけていただ いているのを感じます。アルテさんに通 い初めて子供の成長をとて感じ、大 変感謝しています。 ・どの先生方も親切で子供の気持ちを よく汲み取って支援をしていただ いていると思います。				

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	療育センターアルテ1st		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日	～	2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日	～	2025年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が在籍し、それぞれの専門的な視点を活かした関わりができていくとともに、共通の保育観をもって支援にあたれている。日々の共有を通して、共通して実施すべき内容が明確になっており、職員全体で同じ方向性を意識しながら支援を進めることができていく。	個別支援計画に加え、専門的支援計画も作成しており、集団全体での取り組みと個別での取り組みを整理した上で、それぞれの児童の特性や個性を評価・検討しながら関わることができている。また、状況に応じて専門的支援計画の内容については、集団の中での配慮や関わりが必要な場面を踏まえ、専門職員と意見交換を行いながら、集団生活の中で般化できるよう取り組んでいる。	専門的な支援の中で獲得した力が、集団生活の中でどの程度般化できているかを定期的に振り返り、職員間で共有することで、保護者との面談や日常のやり取りにおいても、全職員が共通認識のもと、児童の課題や強みを把握した上で説明できる体制づくりにつなげていく。
2	聴覚的な情報の理解が難しい児童に対しては、視覚的な手がかりを補うことを目的に、イラストを用いた掲示物を教室内に貼り出し、理解を促している。また、就学児が多い施設の特性を踏まえ、大人用サイズのみではなく子ども用トイレを設置するなど、バリアフリー化された環境を整えている。	例) 姿勢保持が苦手な椅子を傾けてしまう児童に対しては、「だめ」といった否定的な声掛けは行わず、理由を伝えるとともに、イラストを用いて模範となる姿勢を視覚的に示しながら声掛けを行っている。	バリアフリー化の視点において、手すり等の身体補助を目的とした設備面の整備が十分ではない部分があり、今後の環境改善に向けた検討が必要である。
3	アルテ2ndが隣接しているため、各研修や日常的な職員の行き来を通して、普段現場に直接介入する機会が少ない職員からも助言を受けることができ、意見交換の機会が自然と多く生まれる体制となっている。	定期的な法定研修については、アルテ2ndと合同で実施している。また、毎朝の朝礼を1st・2nd合同で行うことで、その日の予定や前日の出来事等の共有、意見交換が行いやすい環境づくりに取り組んでいる。	現在、意見交換は決められた日程で行うことが主となっており、事業所間の日常的なやり取りが少なくなっている。そのため、事業所間での情報共有や意見交換がしやすくなるツールの導入を検討し、より質の高い療育の提供および業務の効率化につなげていくことが求められる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所には専門職も在籍しているものの、日常的な記録業務や各種書類作成、関係機関との連絡調整等の事務作業も併せて担っている状況である。そのため、療育業務に充てられる時間に一定の制約が生じており、毎日安定した個別リハビリテーションと集団療育の両立体制の構築が今後の検討課題となっている。	事務作業等の業務量について、正職員間で業務分担の調整が必要な状況が見受けられる。その影響により、日常的な療育提供体制において、担当できる職員に限られる場面が生じている。記録業務や書類作成、関係機関との連絡調整等を多く担う職員がいることから、療育に従事する時間の確保について、今後さらなる工夫が求められている。	今後は、専門性を要しない業務について職員間で均等に分担する体制を整え、特定の職員に業務が集中しないよう見直しを行うことで、療育に従事できる職員の確保および支援体制の安定化を図っていく。
2	基準人員は確保できているものの、職員に欠勤等が生じた場合には人員配置に一時的な制約が生じ、最低限の配置での運営を余儀なくされる場面がある。そのため、業務の柔軟な調整が難しくなり、職員一人当たりの業務負担が増加するとともに、支援や事務業務に充てられる時間の確保が課題となることもある。	正職員に欠勤が生じた際の緊急時対応に関するマニュアル等が十分に整備されていないため、欠勤発生時にはその都度、役割分担や業務の優先順位について検討・決定する必要がある状況である。このため、対応に時間を要することや、職員間で対応方法に差が生じる可能性があり、円滑な運営に影響を及ぼす場合がある。	今後は、欠勤や急な人員不足に対応可能な体制のさらなる強化、業務の効率化および優先順位付けの具体策、外部リソースの効果的活用、職員の健康管理および負担軽減策について検討する必要がある。また、これらの取り組みが現場で円滑に実施できるよう、運用面や調整方法についても具体的な方策を詰めることが求められる。
3	当事業所の構造上の特徴として、メインフロア中央部に大きな支柱が設置されている。この支柱の存在により、フロア全体を見渡した配置や広い動線の確保が難しく、集団活動を実施する際には活動内容や人数、配置方法に一定の制約が生じることが、当事業所の弱みの一つである。	支援を行う上で、メインフロア中央部に設置された支柱の影響を考慮し、支柱周辺での接触や転倒などの事故を防ぐため、支柱に影響のない活動内容を選定して支援を実施している。しかし、支柱により視界や動線が一部制限される構造上、児童が走る、急に方向転換するなどの動きが伴う活動については、安全面への配慮が必要であり、実施が難しい状況である。	走る活動を行う際には、施設内の構造上、メインフロア中央に支柱が設置されていることから、児童の安全確保を最優先とし、原則として屋外への外出や広いスペースの活用などの工夫を行う。室内で活動を実施する場合には、支柱周辺に衝撃緩和用のマットを設置し、児童の動線を考慮した配置を行うとともに、支柱付近に職員を配置する体制を整えることを検討する。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				利用児童数		回収数			
療育センター アルテ1st		2026年 4月 1日				5		1			
チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	0%	100%	0%	0%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0%	0%	0%	100%					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	0%	0%	0%	100%					
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0%	0%	0%	100%					
	保護者 への 説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	0%	100%	0%	0%				
16		定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0%	100%	0%	0%					
17		事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
18		父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0%	0%	100%	0%					
19		こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	0%	0%	0%	100%					
20		こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
21		定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	0%	0%	0%	100%					
22		個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%					
非常 時 等 の 対 応		23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%	0%	0%	0%				
		24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%	0%	0%	0%				
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	0%	0%	0%	100%					
満足 度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	0%	0%	0%	100%					
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%	0%	0%	0%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%					

